

〔ワークショップ3 / 特異部位の子宮内膜症 Update (尿路, 消化管, 胸腔等の子宮内膜症の臨床)〕

当科での直腸子宮内膜症の管理指針 — 診断精度向上を目指した MRI ゼリー法の導入 —

健保連大阪中央病院婦人科

奥 久人, 松本 貴, 佐伯 愛, 久野 敦
橋本 佳子, 蔵盛理保子, 伊熊健一郎

緒 言

直腸子宮内膜症は, 子宮内膜症患者の5~37%に併発していると報告されている [1, 2]. 直腸子宮内膜症患者では便の狭小化や下血などの症状が一般的であるが, そのような症状を呈さない症例も多い. 当院では, そのような症例を見逃さなくし, 診断精度の向上を図る目的で MRI ゼリー法の導入を図った. 術前に的確に診断することにより, 患者背景に応じた適切な保存的治療と外科的治療との使い分けが可能となり, 患者にとって不要な外科的侵襲を加える可能性を減少するものと考えている. 本稿では, 当院での MRI ゼリー法による直腸子宮内膜症の診断成績の検討に加え, 当院における直腸子宮内膜症に対する治療指針について報告する.

対象と直腸子宮内膜症の診断及び治療指針

I 対象

2006年4月1日から2010年9月30日までに当院婦人科を受診した子宮内膜症例のうち, MRI ゼリー法を施行した683症例を対象とした. 当院における MRI ゼリー法の対象症例は, ①直腸子宮内膜症の診断で紹介受診となった症例, ②骨盤痛, 慢性骨盤痛や排便痛の強い症例, ③腔直腸診で深部子宮内膜症あるいは直腸子宮内膜症の疑いのある症例で, 子宮内膜症症例の全例に行うものではない.

II MRI ゼリー法の手技および診断

順天堂医院の武内らの報告に基づき [3], MRI 検査の30分前に処置として腔内に超音波ゼリー 50ml をタンポンとともに挿入し, 直腸にも水

道水で2倍に希釈した超音波ゼリー 200~400 ml を注入しておく. 必要物品は図1に示す.

MRI ゼリー法で狭窄を伴う直腸子宮内膜症と診断した症例および疑う症例に対しては, 大腸内視鏡による精査を行う.

III 直腸子宮内膜症に対する診療指針

保存的治療と外科的治療に関しては, 年齢, 症状, 狭窄の程度, 大腸内視鏡所見などを考慮したうえでの選択となる.

結 果

I 診断

MRI ゼリー法で直腸子宮内膜症の診断を得たのは, 683症例中の27症例 (4%) であった.

まず, 図2に深部子宮内膜症を伴わない症例での MRI ゼリー所見を示す. 図に示すように, S2 下縁・腹膜翻転部・肛門挙筋下縁の識別が

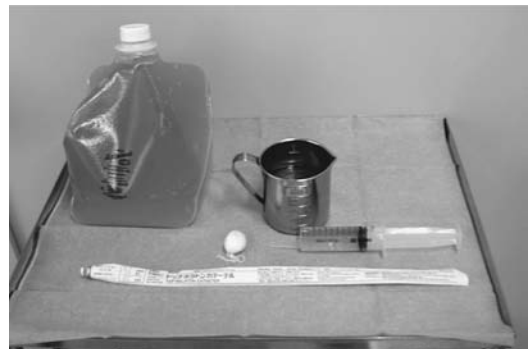


図1 MRI ゼリー法に必要な物品

- ・超音波ゼリー
- ・500mlのピッチャー
- ・ひも付きタンポン
- ・50mlのカテーテルチップ
- ・14Frのネラトンカテーテル

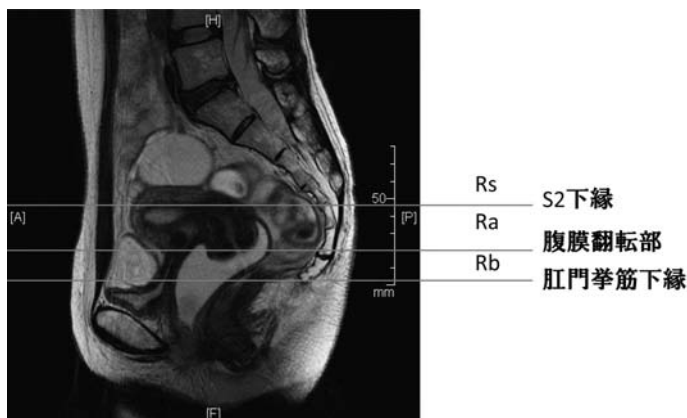


図2 直腸子宮内膜症を伴わない症例でのMRIゼリー法所見



図3 直腸子宮内膜症を伴うMRIゼリー法所見

左：Rs部直腸子宮内膜症
 中：Ra部直腸子宮内膜症
 右：Rb部直腸子宮内膜症

可能なため直腸の部位の診断が可能になる。直腸子宮内膜症が存在した症例での部位別所見を図3に示す。

また、同一症例での通常のMRIとMRIゼリー法施行後の直腸子宮内膜症所見との比較を図4に示す。通常のMRI所見に比べMRIゼリー法の所見では、狭窄した直腸子宮内膜症病巣がより明白に描出されているのがわかる。

これらの直腸子宮内膜症例のうち、当院初診時担当医師が最初に下した診断と、MRIゼリー法施行後の所見とのディスクレパンスを図5に示す。初診時に直腸子宮内膜症を疑った症例は27症例中15症例(56%)で、他の12症例(44%)に対しては直腸子宮内膜症を疑っていなかった。また、卵巣嚢腫や骨盤痛で受診した14症例

のなかでは4症例(29%)に直腸子宮内膜症を疑ったのみで、他の約70%の10症例に対しては直腸子宮内膜症の疑いをもたなかった。

II 治療

保存的治療を行ったのは27症例中の12症例(44%)で、その内訳は、①低用量経口避妊薬(以下OC)6症例、②ジェノゲスト4例、③自然経過観察2例(1症例は不妊治療施行中)である。

それらの保存的治療症例のなかには、チョコレート嚢胞摘出術後にも症状の改善がみられず、術後のMRIゼリー法により直腸子宮内膜症と診断された3症例と、当院での直腸子宮内膜症の診断の下にチョコレート嚢胞摘出術のみを行いOC内服による管理をしている1症例も



図4 同一症例での直腸子宮内膜症所見を通常のMRIとMRIゼリー法との比較
左：通常MRI法所見
右：MRIゼリー法所見

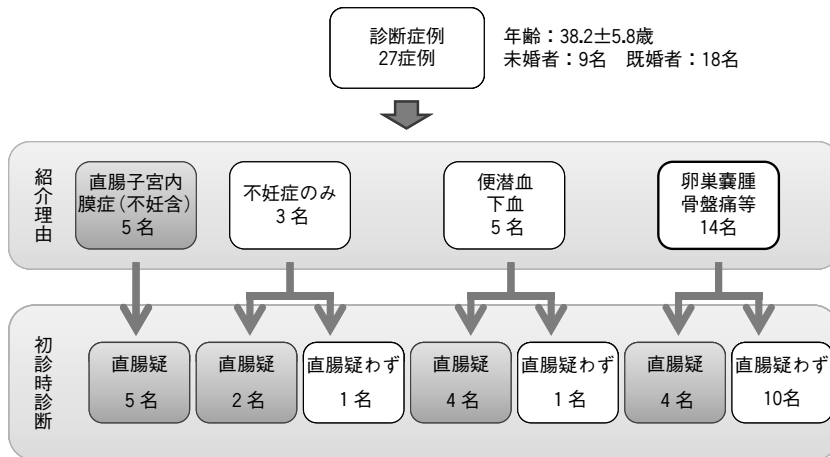


図5 直腸子宮内膜症であった症例に対する当院初診時での担当医の診断の内訳

含まれている。

また、外科的治療を行ったのは27症例中の15例(56%)で、その内訳は①根治手術をした2症例のなかで1症例には低位前方切除術を、1症例には直腸半層切除を施行した。②症状の改善や妊娠性の改善の目的で手術を施行した13症例のなかで12症例に低位前方切除術を、1症例に直腸半層切除を施行した。これらの外科的治療症例のなかには、子宮筋腫核出術やチョコレート嚢胞摘出術の施行にもかかわらず症状の改善がみられず、術後のMRIゼリー法による再

精査で直腸子宮内膜症の診断に至った2症例が含まれている。

考 察

直腸子宮内膜症は、他臓器子宮内膜症のなかでも比較的遭遇することの多い疾患であるが、必ずしも下血などの典型的な症状を呈するものではない。直腸子宮内膜症の診断は、通常は問診・膣直腸診・超音波検査・大腸内視鏡検査・注腸造影による。しかし、消化器症状を生じない場合は直腸子宮内膜症とは疑われないため、腸管系の検索はなされず、日常診療では診断に

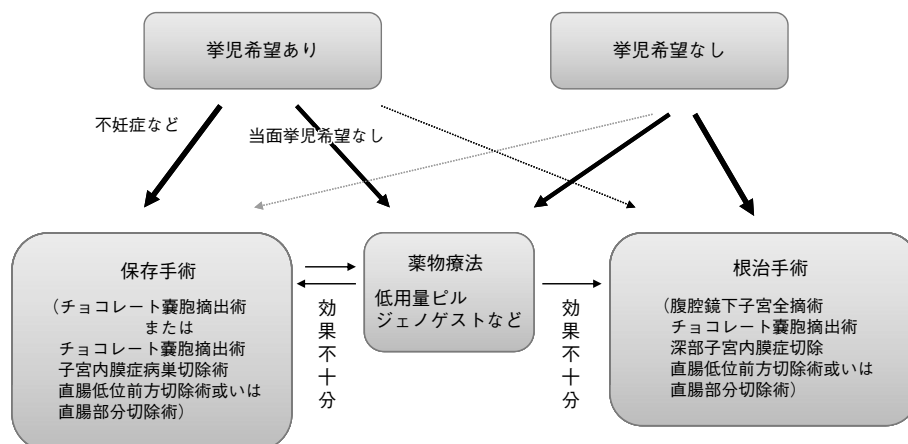


図6 当院での直腸子宮内膜症に対する治療指針

至らない症例も多いものとする。

今回の検討した27症例のなかでも、下血をきたしていたのはわずか5症例（19%）にすぎなかった。一方、初診時に重症子宮内膜症とは診断していたが、直腸子宮内膜症を疑わせなかった症例が実に12症例にもおよぶ。そのような症例を術前に的確に診断するには、詳細な問診や腔直腸診などによる理学的所見だけでは無理であり、MRIゼリー法の必要性が浮き彫りにされた。

このMRIゼリー法は、特に子宮内膜症患者の癒着や深部子宮内膜症の評価に有用であるとされており、合わせて直腸子宮内膜症の診断にもきわめて有用な検査法であると報告されている〔3〕。今回の検討でも、図2、3で示すように直腸子宮内膜症においてMRIゼリー法で病巣部位の診断が可能であり、患者に対しても侵襲の少ない有用な検査法であると思われる。現に、直腸子宮内膜症と診断された症例のうち、卵巣嚢腫や骨盤痛の診断で当院を受診した14症例においては、10症例（71%）もがMRIゼリー法により初めて診断されている。

ところで、MRIゼリー法で所見のみられた症例に対しては、直腸子宮内膜症の補助診断として大腸内視鏡検査を行うようにしている。しかし、組織診断で子宮内膜症と診断されるのは10%以下と報告されているように〔4〕、当院で

も大腸内視鏡検査により組織学的に直腸子宮内膜症の術前診断がついたのは、わずか27症例中の2症例（7.5%）にすぎず、早期の直腸子宮内膜症の診断には、現在のところMRIゼリー法での画像所見によるスクリーニングがきわめて有用な検査法であると考えている。

通常のMRIで直腸子宮内膜症の診断が難しく、MRIゼリー法で診断された症例を図4に示す。この症例では、チョコレート嚢胞の診断の下に当院紹介受診となり、チョコレート嚢胞摘出術後も症状の改善をみないためにMRIゼリー法を施行した症例である。しかし、後日に診断が変わっていくことは患者の不安感や不信感にもつながることになりかねないため、可能な限り手術前には的確な診断をつけておくことが大切なことと考えている。

また、われわれは保存的手術のみで10年から20年以上の長期におよぶ重症子宮内膜症の管理を行うことはきわめて無理なことと考えており、当院での直腸子宮内膜症治療プロトコルについて図6に示す。患者の長期的なライフスタイルを考慮したうえで、OCやジェノゲストなどの内分泌療法を中心とした診療指針のなかで手術療法の選択が提供できるよう心掛けている。ところで、当院での直腸子宮内膜症に対する外科的治療としては、症状に応じて直腸低位前方切除を含む手術を行ってきた〔5〕。その手

術適応となるのは、①狭窄症状をきたしている症例、②疼痛管理のできない症例、③不妊治療を行う必要のある症例と考えている。

しかし、直腸子宮内膜症に対する根治手術を施行する際には、術後の腸管縫合不全などの術後合併症も考慮する必要もあり、慎重な検討と患者の理解のうえでインフォームドコンセントが重要であると考えている。

まとめ

直腸子宮内膜症は、下血をきたさない症例のなかにも多く存在する。それらを的確に診断するためには、詳細な問診や膣直腸診に加えMRIゼリー法が有用であることが明らかとなった。また、治療法としては薬物治療も有効な場合があるが、症状に応じては外科的治療も考慮する

必要があるものと考えている。

文 献

- [1] Jubanvic KJ et al. Extrapelvic endometriosis. *ObstetGynecol Clin North Am* 1997; 24: 411-440
- [2] 武内裕之ほか. 子宮内膜症におけるダグラス窩閉塞の病態と腹腔鏡下手術を用いた治療ストラテジーに対する検討. *日産婦誌* 2003; 55: 903-914
- [3] Takeuchi H et al. A novel technique using magneticresonance imaging jelly for evaluation ofrectovaginal endometriosis. *Fertil Strril* 2005; 83: 442-447
- [4] 牛尾恭輔. 回盲部子宮内膜症の診断. *胃と腸* 1998; 33: 1397-1399
- [5] 奥久人ほか. 直腸子宮内膜症に対する腹腔鏡下低位前方切除術の検討—外科との連携で行った7症例より—. *エンドメトリオーシス研究会誌* 2008; 29: 80-84